

知ってる？

2022

城陽の宝もの

～次代に残そうふるさとの自然～



—はじめに—

キノコには不思議な魅力があります。ひとつはその独特のフォルム。傘と柄・球形・花びら状……、純白・鮮やかな黄・くすんだ褐色……、その多様な姿や色について見惚れてしまいます。ある日突然姿を現すという意外性も魅力。いつも出会えるわけではない、だからこそ出会ったときの喜びは格別です。そして何と言っても「食か毒か」の二択。おいしそうなキノコが実は猛毒。見た目だけではわからない。キノコならではの神秘を感じます。

そんなキノコたちが私たちのすぐ近くで生きています。このガイドブックでは、それを実感してもらいたくて城陽市内で撮影されたキノコだけを掲載しました。キノコを見つけたら、ここに出ているキノコと比べてみてください。ただし、キノコの種類は非常に多く（数千種）、ガイドブックではとても紹介しきれません。くわしく知りたい人は巻末で紹介した図鑑などで確かめてください。きっとキノコの世界に引き込まれると思いますよ。

キノコらしいキノコ その1 ハラタケ目 テングタケ科

テングタケ科 傘と柄が簡単に離れる、ひだの端と柄の付け根が離れている(離生)、つば・つぼを持っているものが多いなどの特徴があり、見分けやすい科です。ほとんどが毒キノコで、致死性のものも多くあります。

テングタケ(テングタケ科)

傘径 4~25cm
柄長 5~35cm
特徴 傘上面に平たくて白いイボが多数。毒。
記録日 2020.8.28



ドクツルタケ(テングタケ科)

傘径 6~15cm
柄長 14~24cm
特徴 全身真っ白。根元が膨らむ。猛毒
記録日 2000.10.26



シロオニタケ(テングタケ科)

傘径 9~20cm
柄長 12~22cm
特徴 傘上面に突起。乾くと猛烈に臭い。毒。
記録日 2000.10.7



ササクレシロオニタケ(テングタケ科)

傘径 4~8cm
柄長 11~15cm
特徴 傘上面にイボ、柄の根元にささくれ。毒。
記録日 2009.7.29



カバイロコナテングタケ(テングタケ科)

傘径 4.5~9cm
柄長 9~12cm
特徴 表面が粉状。京都府要注目種。毒。
記録日 2000.10.14



カバイロツルタケ(テングタケ科)

傘径 4~10cm
柄長 7~15cm
特徴 柄が鶴みたい。毒成分が見つかる。
記録日 2016.10.9



コラム1 ブナ科の樹木とキノコ

城陽でよく見られる樹木にシイ、カシ、コナラ、クヌギがあります。これらはすべてブナ科で、ブナ科樹木は北半球全体で繁栄しています。その理由がキノコとの関係にあります。ブナ科樹木は根にキノコの菌糸がとりまいており、キノコから土中の養分や水を提供してもらっています(コラム4)。そのことが生き残る上で有利に働きブナ科樹木の繁栄につながりました。ドクツルタケもそのような働きをするキノコのひとつです。ドクツルタケは猛毒のキノコですが、シイやカシの木が育つには必要なキノコなのです。

キノコらしいキノコ その2

ハラタケ目

旧キシメジ科

旧キシメジ科 旧分類では、非常に多くの種がキシメジ科に分類されていました。しかし、DNA解析が進み、中にはさまざまな種類が含まれることがわかり、新分類ではいくつかの科に分けられました。なお、マツタケは旧分類でも新分類でもキシメジ科に分類されています。

エノキタケ(タマバリタケ科)

傘径 2~8cm

柄長 2~9cm

特徴 野生のものは赤褐色でつやがある。



記録日 2016.12.25

ナラタケモドキ(タマバリタケ科)

傘径 4~6cm

柄長 5~8cm

特徴 木を枯らしてしまう。つばはない。



記録日 2016.6.24

ブナノモリツエタケ(タマバリタケ科)

傘径 4~10cm

地上部柄長 5~12cm

特徴 地中に長く伸びる。



記録日 2015.9.20

ムラサキシメジ(キシメジ科)

傘径 6~10cm

柄長 4~8cm

特徴 初め全体が紫色、しだいに退色する。



記録日 2001.11.26

チシオタケ(ラッシタケ科)

傘径 1~3.5cm

柄長 2~13cm

特徴 切ると血のような液が出る。



記録日 2006.11.3、2020.10.18(枠内)

ハナオチバタケ(ホウライタケ科)

傘径 0.8~1.5cm

柄長 3~6cm

特徴 傘の色は赤紫、黄土色などがある。



記録日 2016.10.9

シイタケ(ツキヨタケ科)

傘径 4~20cm

柄長 3~10cm

特徴 傘の表面に白い綿毛。



記録日 2000.11.12

ニセマツカサシメジ(フウリシメジ科)

傘径 0.8~2.3cm

柄長 2.5~5cm

特徴 マツボックリから生える。



記録日 2001.11.19

キノコらしいキノコ その3 ハラタケ目 ハラタケ科など

ハラタケ科 新分類では、腹菌類のホコリタケなど非常に多くの種がこの科に含まれるようになりました。ハラタケ科のうち、カラカサタケの仲間は、つばと柄が離れているためつばを上下に動かすことができます。

ヒラタケ(ヒラタケ科)

傘径 5~15cm

柄長 0~3cm

特徴 ひだが柄に垂生する。晩秋~春。



記録日 2015.11.22

ウスヒラタケ(ヒラタケ科)

傘径 2~8cm

柄長 0~1.5cm

特徴 ヒラタケより傘が薄い。春~秋。



記録日 2018.9.17

カラカサタケ(ハラタケ科)

傘径 8~20cm

柄長 15~30cm

特徴 傘を握ると弾力がある。柄が段だら模様。



記録日 2016.10.16

オオシロカラカサタケ(ハラタケ科)

傘径 7~30cm

柄長 10~25cm

特徴 成熟するとひだが緑色を帯びる。毒。



記録日 2020.7.12

キツネノハナガサ(ハラタケ科)

傘径 2~4cm

柄長 4~8cm

特徴 レモン色で薄くて可憐なキノコ。



記録日 2016.9.22

アキヤマタケ(ヌメリガサ科)

傘径 2~4.5cm

柄長 2.5~5cm

特徴 表面がロウの手触り。



記録日 2000.11.3

コラム2 キノコってどんな生きもの？

キノコは植物と違って光合成することができません。カビの仲間とともに菌類としてまとめられます(大腸菌などの細菌類とは全く別の生きものです)。森に積もった落ち葉をめぐった時、白い糸状のものを見たことはありませんか。これは菌糸と呼ばれるもので、これがキノコのもとの体です。私たちが「キノコ」と呼んでいるものは、土中や枯れ木の中で広がった菌糸が、条件が整ったときに集まって地上に姿を現したものです。学問的にはこれを子実体(しじつたい)と言います。

キノコらしいキノコ その4

ハラタケ目 モエギタケ科など

ニガクリタケ(モエギタケ科)

傘径 1~5cm

柄長 2~12cm

特徴 ひだは黄
~紫褐色。
猛毒。



記録日 2012.10.23

ツチナメコ(モエギタケ科)

傘径 2~7cm

柄長 3~6cm

特徴 写真のつば
の茶色は胞
子の色。



記録日 2016.10.16

キイボカサタケ(イッポンシメジ科)

傘径 1~6cm

柄長 3~10cm

特徴 傘中央に小さ
なイボがある。
毒。



記録日 2001.10.15

ウメハルシメジ(イッポンシメジ科)

傘径 3~7cm

柄長 4~7cm

特徴 4~5月、
ウメやモ
モの木の
根元に
出る。



記録日 2022.4.25

ムラサキアブラシメジモドキ(フウセンタケ科)

傘径 2.5~5cm

柄長 4~7cm

特徴 薄紫に褐
色。粘性
あり。



記録日 2000.10.26

マツオウジ(キカイガラタケ科)

傘径 5~15cm

柄長 2~8cm

特徴 松ヤニの匂
い。キカイガ
ラタケ目



記録日 2021.4.27

コラム3 キノコはどうやって子孫を増やすの？

キノコは子実体の中に胞子(ほうし)をつくってその胞子で子孫を増やします。つまり、子実体は植物の「花」に当たります。キノコの胞子はいろいろな方法で周囲にまき散らされます。代表的なものは風で運ばれるというものです。遠くまで飛ぶようにと、キノコは長い柄を持つようになりました。スポンタケは柄の先端に悪臭のネバネバ(グレバ)をつくり、胞子はその臭いに集まったハエの足にくっついて運ばれます。ホコリタケの袋には胞子がつめこまれていて、雨粒が袋に当たると、その勢いで袋のてっぺんから胞子がホコリのように飛び出てきます。キノコを食べた虫が胞子を運ぶというのもあります。

キノコらしいキノコ その5

イグチ目

イグチの仲間 イグチ科、ヌメリイグチ科など「イグチ」がついている科のキノコのほとんどは、傘の下面がひだではなく、穴（これを管孔、その入り口を孔口と言う）になっているので、一目で他の種類と見分けられます。孔口の形や大きさ、色、色の变化などは種を見分けるときのポイントになります。

ヤマドリタケモドキ(イグチ科)

傘径 6~20cm

柄長 10~18cm

特徴 孔口は初め菌糸でふさがれる。



記録日 2017.9.24

キクバナイグチ(イグチ科)

傘径 5~13cm

柄長 7~13cm

特徴 傘表面がキクの花のように見える。



記録日 2020.7.21

オオヤシャイグチ(イグチ科)

傘径 4~8cm

柄長 6~10cm

特徴 傘はビロード状で亀甲状ひび割れ。



記録日 2000.10.7

ベニイグチ(イグチ科)

傘径 5~13cm

柄長 8~14cm

特徴 傘・柄とも紅色。柄に網目模様。



記録日 1999.9.19

ヌメリニガイグチ(イグチ科)

傘径 2.5~6cm

柄長 3.5~8cm

特徴 粘性あり。柄の基部に黄色のシミがある。



記録日 2015.9.20

イロガワリキヒダタケ(イグチ科)

傘径 2~6cm

柄長 3~7cm

特徴 イグチ科だが管孔ではなくひだ。毒。



記録日 2017.9.23

アミタケ(ヌメリイグチ科)

傘径 5~11cm

柄長 3~6cm

特徴 粘性あり。孔口がアミ状。



記録日 2014.8.24

オウギタケ(オウギタケ科)

傘径 4~6cm

柄長 3~6cm

特徴 粘性あり。ひだが柄に垂生。



記録日 2001.11.19

キノコらしいキノコ その6 ベニタケ目

ベニタケ科 子実体がポロポロと崩れやすい、傘の中央がへこんでいるものが多いなどの特徴を持ち、見分けやすい科と言えます。この科の中で、傷つくと白い乳液を出すものはチチタケ属に分類されます。

シロハツモドキ(ベニタケ科)

傘径 6~14cm

柄長 3~6cm

特徴 全身白。古くなると茶色がかかる。毒。



記録日 2000.10.7

クロハツ(ベニタケ科)

傘径 8~15cm

柄長 3~8cm

特徴 だんだん黒くなる。ひだが厚い。毒。



記録日 2019.9.17

ケショウハツ(ベニタケ科)

傘径 4~9cm

柄長 4~10cm

特徴 桃の実のように見える。



記録日 2016.6.15

カワリハツ(ベニタケ科)

傘径 4~10cm

柄長 4~5cm

特徴 傘の色は、紫、淡紅、緑など様々。



記録日 2019.9.23

ハツタケ(ベニタケ科)

傘径 5~10cm

柄長 2~5cm

特徴 京都府準絶滅危惧種。乳が乾くと青緑色になる。



記録日 2000.11.13

チョウジチチタケ(ベニタケ科)

傘径 3~7cm

柄長 3~7cm

特徴 同心円模様のはっきり。白い乳液を出す。



記録日 2015.7.8

コラム4 キノコは何を「食べて」生きてるの？

キノコは種類によって栄養の取り方が変わります。1つは落ち葉や枯れ木の成分を分解してそれを栄養にするキノコです。シイタケはその一例です。2つめは冬虫夏草のように虫などの生きた体から栄養を奪って生きているキノコです。3つめは、木の根から栄養をもらい、その代わりに菌糸が土中で集めた養分や水を木にあげて、木と共生しているキノコです。このようなキノコを菌根菌(きんこんきん)と言い、その代表がマツタケです。

固い系のキノコ その1 タマチョレイタケ目

カワラタケ(タマチョレイタケ科)

- 傘径 1~5cm
柄長 無柄
特徴 黒、藍、灰など色は様々。よく見るキノコ。



記録日 2020.9.13

ヒイロタケ(タマチョレイタケ科)

- 傘径 3~10cm
柄長 無柄
特徴 風雨にさらされると緋色が退色。孔口は微細。



記録日 2022.1.12

ハチノスタケ(タマチョレイタケ科)

- 傘径 2~4cm
柄長 ごく短い柄
特徴 孔口がハチの巣のような六角形。



記録日 2000.11.13

カイガラタケ(タマチョレイタケ科)

- 傘径 2~10cm
柄長 無柄
特徴 表面に細かい毛。下面はひだ。



記録日 2000.11.12

マンネンタケ(タマチョレイタケ科)

- 傘径 5~15cm
柄長 5~15cm
特徴 赤褐色で光沢あり。漢方薬の靈芝



記録日 2015.11.3

コフキササルノコシカケ(タマチョレイタケ科)

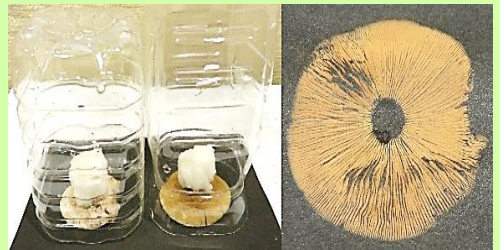
- 傘径 10~60cm
柄長 無柄
厚さ 2~30cm
特徴 表面や周囲にココア色の胞子がよく見られる。



記録日 2016.10.15

コラム5 胞子紋をとってみよう

胞子1つ1つは目に見えませんが、集まればコフキササルノコシカケのように胞子の色が見えます。写真はキノコの傘を紙の上に置いて、ふたをかぶせて1晩置いておくと、紙の上に落ちた胞子がひだの形に写し出されたところです。この模様を胞子紋(ほうしもん)と言い、この色はキノコの種類を見極めるのに利用されます。紙の裏面からフィキサチーフ(画材店で売っている)を吹きかければ胞子紋を紙に固定することができます。採ってきたキノコ、買ってきたキノコ、いろいろ試してみたいはかがですか。



固い系のキノコ その2 ハラタケ目など

カンゾウタケ(カンゾウタケ科)

傘径 10~20cm

柄長 0~3cm

特徴 赤い肉のよう。
ハラタケ目。

記録日 2001.10.11



スエヒロタケ(スエヒロタケ科)

傘径 1~3cm

柄長 無柄

特徴 ひだの先端
が2つに分
かれる。ハラ
タケ目。

記録日 2000.11.23



ベニナギナタタケ(シロソウメンタケ科)

高さ 5~18cm

特徴 ねじれたりす
ることもある。
ハラタケ目。

記録日 2015.9.20



ナギナタタケ(シロソウメンタケ科)

高さ 5~15cm

特徴 古くなると
先端が茶色
に。ハラタケ
目。

記録日 2016.10.16



ボタンイボタケ(イボタケ科)

傘径 5~10cm

高さ 5~8cm

特徴 傘の下面
がイボ状。
イボタケ
目。

記録日 2017.8.27



トキイロラッパタケ(アンズタケ科)

傘径 1.5~5cm

高さ 1.5~5cm

特徴 傘の下面は
しわ状。アン
ズタケ目。

記録日 2019.10.14



コラム6 キノコと石炭の関係

恐竜時代より古い3.6億年~3億年前に、石炭紀という時代がありました。その時代の地層から大量の石炭が見つかることから名づけられました。石炭は、倒れた樹木が地層に埋もれ、長い年月の間にそれが変化してできたものです。大量の石炭が見つかるということは石炭紀に大森林があったことを示しています。それ以前は植物の進化がそこまで行っていなくて石炭はできませんでした。しかし、石炭紀以後はどうでしょうか。石炭紀以後も森林はあったのに、見つかる石炭の量はだんだん少なくなります。そこにキノコが関係します。実は、石炭紀の後、キノコが地球上に現れたことが原因です。倒れた樹木をキノコが次々と分解していったため、地層に埋もれる木が減り、石炭ができなくなっていったというわけです。

丸っこいキノコ その1 スッポンタケ目

スッポンタケ (スッポンタケ科)

幼時径 4~6cm
 成長時 9~15cm
 特徴 成長するとスッポンのような柄を伸ばす。
 記録日 1998.11.3



キヌガサタケ(スッポンタケ科)

幼時径 3~5cm
 成長時 15~18cm
 特徴 レースが特徴。早朝より伸び始め数時間で完了。
 記録日 2010.7.1



キツネノタイマツ(スッポンタケ科)

幼時径 2~3cm
 成長時 7~15cm
 特徴 柄は濃いオレンジ色で下の方は淡い。
 記録日 2016.10.21



カニノツメ(アカカゴタケ科)

幼時径 1~2cm
 成長時 5~7cm
 特徴 2本の腕が少し湾曲して伸びている。
 記録日 2000.11.16



カゴタケ(アカカゴタケ科)

径 2~4cm
 特徴 グレバは柑橘類の香。京都府絶滅寸前種。
 記録日 2002.11.4



シラタマタケ(プロトファルス科)

径 2~5cm
 特徴 でこぼこした感じ。中が小室に分かれる。
 記録日 2015.11.22



コラム7 腹菌類のキノコを切ってみよう

腹菌類という名は、丸い袋の中に孢子を入れていることから付けられました。中がどうなっているか切ってみましょう。ホコリタケの白い部分が成熟すると茶色の孢子になります。コツブタケは小さな粒から孢子が作られます。スッポンタケは白い部分が伸びて柄になります。カゴタケには白い骨組みが見られます。スッポンタケ、カゴタケ、シラタマタケの緑灰色の部分はグレバといって、ここに孢子が作られます。



ホコリタケ



コツブタケ



スッポンタケ(幼菌)



カゴタケ



シラタマタケ

丸っこいキノコ その2 ハラタケ目、ヒメツチグリ目など

ホコリタケ(ハラタケ科)

径 2~4cm
高さ 4~6.5cm
特徴 表面の突起は成長すると脱落。ハラタケ目。
記録日 2018.11.25



オニフスベ(ハラタケ科)

径 20~60cm
特徴 バレーボールのような巨大なキノコ。ハラタケ目。
記録日 1999.8.21



スマレホコリタケ(ハラタケ科)

径 8~16cm
高さ 6~12cm
特徴 表面に網目模様。胞子塊は紫色。ハラタケ目。
記録日 2001.7.23



コチャダイゴケ(ハラタケ科)

口径 0.5~0.8cm
高さ 1cm
特徴 コップに小石が入っているように見える。ハラタケ目。
記録日 2012.10.11



トガリフクロツチグリ(ヒメツチグリ科)

幼時径 2~3cm
高さ 2.3~4.5cm
特徴 クワイのような形。ヒメツチグリ目。
記録日 2016.10.16



タマハジキタケ(タマハジキタケ科)

幼時径 1.5mm
特徴 小さな花のように見える。ヒメツチグリ目。
記録日 2000.11.3



コツブタケ(ニセシヨウロ科)

径 2~10cm
特徴 切ると中に小さな粒が詰まっているように見える。イグチ目。
記録日 2000.10.21



ウスベニタマタケ(イグチ科)

径 1~3cm
特徴 ピンクの体に橙色の根状の菌糸束。イグチ目。
記録日 2000.11.7



コラム8 キノコ染めをやってみませんか

草木染めはご存じの方も多いと思いますが、同じ要領でキノコ染めをすることができます。コツブタケはそのキノコ染めにうってつけのキノコです。子実体に詰まっている胞子を使って染めます。染め上がりは金色に輝きます。コツブタケは樹木の根本で結構見つかります。一度試してみませんか。

キクラゲ類

キクラゲ類 形はチャワンタケに似ていますが、生物学的には担子菌類に分類されます。ただ、担子器の形(顕微鏡で見ないとわからない)が他の担子菌類と大きく違って、その点で区別されます。城陽市内でも意外によく見つかります。

キクラゲ(キクラゲ科)

径 2~10cm

特徴 耳のような形でゼラチン質。結構見つかる。キクラゲ目。



記録日 2016.4.22

アラゲキクラゲ(キクラゲ科)

径 2~8cm

特徴 裏側に細かい毛がある。キクラゲ目。



記録日 2021.10.17

タマキクラゲ(ヒメキクラゲ科)

径 2~6cm

特徴 1個1個分かれている。形は様々。キクラゲ目。



記録日 2018.6.12

シロキクラゲ(シロキクラゲ科)

径 3~8cm

特徴 花びら状でゼラチン質。シロキクラゲ目。



記録日 2013.10.20

ハナビラニカワタケ(シロキクラゲ科)

径 10cm程度

特徴 花びらが重なっているように見える。シロキクラゲ目。



記録日 2000.11.4

ツノフノリタケ(アカキクラゲ科)

径 1mm

高さ 8mm程

特徴 先が少し上がった棒状。アカキクラゲ目。



記録日 2000.11.4

コラム9 森のインターネット

アメリカのオレゴン州の森で調査したところ、同じDNAをもったキノコ(ナラタケの一種)の菌糸が8.9km²に広がっており、その全重量が600トンあったとのこと。城陽市の面積は32.7km²です。単純計算すると、キノコ4個で城陽市が覆われることになります。このようにキノコの菌糸は地中に広くびっしり張りめぐらされています。その菌糸が集めた養分や水をもらうことで樹木は元気に生きられます(コラム4)。それだけでありません。近年、菌糸を介して木と木が情報交換していることが分かってきました。いわば、キノコの菌糸は森のインターネットです。「ボクんちに害虫が来たから、キミも気をつけて」なんて樹木同士で「会話」しているかもしれません。鴻ノ巣山や青谷の森でそんなことが行われていると考えると、なんだか楽しいですね。

子囊菌類

担子菌と子囊菌 菌類のうち、胞子が担子器(たんしき)という棒状の細胞の先についている種類を担子菌、子囊(しのう)という袋状の細胞に入っている種類を子囊菌と言います(この違いは顕微鏡で見ないと分からない)。キノコは担子菌が、カビは子囊菌が多いですが、「キノコ」をつくる子囊菌もあります。子囊菌の傘のように見える部分を「子囊盤」と言います。

オオゴムタケ(クロチャワಂತケ科)

子囊盤径 4~7cm

高さ 3~4cm

特徴 内部は弾力がある。チャワಂತケ目。

記録日 2013.9.22



オオチャワಂತケ(チャワಂತケ科)

子囊盤径 3~8cm

特徴 茶碗の形。腐食土に発生。毒。チャワಂತケ目。

記録日 2001.11.5



ナガエノチャワಂತケ(ノボリリュウタケ科)

子囊盤径 1.5~3cm

高さ 3~10cm

特徴 長い柄と茶碗形。柄に細毛。チャワಂತケ目。

記録日 2016.10.9



ゴンゲンタケ(ホテイタケ科)

子囊盤径 1~2cm

高さ 2~4cm

特徴 子囊盤の縁が内巻で柄に縦溝がある。リスチマ目。

記録日 2000.11.3



ニセキンカクアカビヨウタケ(トウヒキンカクキン科)

子囊盤径 3~5mm

高さ 3~4mm

特徴 黄から橙色で短い柄あり。ビョウタケ目。

記録日 2021.10.17



ヤンマタケ(オフィオコルジケプス科)

長さ 2~5mm

特徴 トンボに寄生。ボタンタケ目。京都府準絶滅危惧種。

記録日 2007.11.11



ハチタケ(オフィオコルジケプス科)

高さ 3~10cm

特徴 スズメバチなどに寄生。2本以上出ることもある。ボタンタケ目。

記録日 1999.5.2



クモタケ 所属科未定

地上部A高さ 2~7cm

特徴 地中のBにいるトタテグモに寄生。梅雨時に多い。ボタンタケ目。

記録日 2006.7.2



キノコさがしに出かけよう！



キノコさがしをするときは次のことに注意してください。

①服装と持ち物

(夏でも) 長袖、長ズボン、靴下、帽子、運動靴または長靴(サンダルやスリッパは厳禁)。ケガや虫さされの予防のためです。全身白っぽい服装(特に秋)にしましょう。スズメバチ対策です(それで万全というわけではありませんが…)。

水筒、虫除け薬(スプレー式、携帯式など)、軍手、タオル、スコップ、容器(キノコを入れる用の竹カゴ、プラスチック容器など)、リュックサック。

その他、ルーペ、カッター、カメラ、図鑑があると便利です。

絵を描きたい人はスケッチブックと色鉛筆も。



②採るときの注意

事前に森の所有者や森林管理事務所などの許可を取りましょう。

城陽には青谷川左岸の森のように深い森もあります。1人では行かないようにしましょう。

大勢の人と一緒にさがしましょう。多くの人の目があるといろんなキノコが見つかります。特に子どもはキノコさがしの名人。ただし、採りすぎないように。大量の採集は罰せられることもあります。

キノコを見つけたら、すぐに採らないでまずよく観察をしましょう。キノコが出ているのは倒木? 落ち葉? 地面? マツボックリから出るキノコもあります。

つぎに、スコップを使って下から掘るようにします。地中深く伸びているものもあります。地中の虫から出ているものもあります。

スズメバチやマムシなど危険な生きものに出会ったら、互いに声をかけ合い、その場から離れましょう。特に夏はこまめに水分補給しましょう。



③採ったキノコを調べる

くわしい人がいれば教えてもらいましょう。

自分でもキノコの特徴を確かめ、図鑑で調べてみましょう。カッターやルーペを使って内部や管孔を見たりすると意外な発見があるかも。写真に撮ったりスケッチしたりするのもいいですね。

食べてみたいという人は、専門家が「食べても大丈夫」と断定した場合だけに限定してください。自分で判断するのは絶対にやめてください。

毒キノコでも手で触ったくらいなら大丈夫です(カエンタケだけは触ってはいけません)が、手洗いは忘れないでください。

最後にキノコを森に戻します。そうして森を守っていきましょう。



参考資料・掲載写真について

このガイドブックを作製する際、次の図鑑、図書、ホームページを参考にしました。

- 『山溪カラー名鑑 日本きのこのこ』今関六也ら編著、山と溪谷社。（専門的だが、写真が大きくて初心者にも分かりやすい）
- 『原色日本新菌類図鑑』今関六也、本郷次雄編著、保育社。（Ⅰ、Ⅱの2巻からなる。キノコ研究のバイブルとも言える図鑑。専門家向け）
- 『新版北陸のきのこ図鑑』池田良幸著、橋本確文堂。（市販されている図鑑で最もくわしい。専門家向け）
- 『山溪フィールドブックス⑩きのこ』本郷次雄監修、山と溪谷社。（コンパクトで掲載種数が多く、野外観察向き）
- 『コンパクト版6 原色きのこ図鑑』印東弘玄ら編著、北隆館。（コンパクト版ながら、これにしか掲載されていないキノコがかなりある）
- 『くらべてわかるきのこ』吹春俊光監修、山と溪谷社。（実物と同じ大きさの写真のため一目でわかる。初心者向け）
- 『フィールドベスト図鑑14 日本の毒キノコ』長沢栄史監修、学習研究社。（毒キノコだけ集めた図鑑。その中にはこれまで食用とされていたキノコもある）
- 『カラー版冬虫夏草図鑑』清水大典著、家の光協会。（冬虫夏草専門の図鑑、美しい図とくわしい説明でわかりやすい）
- 『冬虫夏草生態図鑑』日本冬虫夏草の会編著、誠文堂新光社。（図鑑としてくわしいだけでなく、冬虫夏草に関わる様々な話が載っている）
- 『地下生菌 識別図鑑』佐々木廣海ら著、誠文堂新光社。（地中または半地中で見つかるキノコ専門の図鑑）
- 『カビ・キノコが語る地球の歴史』小川真著、築地書館。（カビやキノコがいつ頃誕生して、どう進化してきたかなど、専門的）
- 『たのしい自然観察 きのこ博士入門』根田仁著、伊沢正名写真、全国農村教育協会。（専門的な内容を豊富な写真を使ってわかりやすく解説）
- 『樹木たちの知られざる生活』ペーター・ヴォールベン著、長谷川圭訳、ハヤカワノンフィクション文庫（木同士が会話しているなど、森についてのびっくりする話）
- 『いきもの六法 日本を自然を楽しみ、守るための法律』中島慶二・益子知樹監修、山と溪谷社。（動植物の採取や飼育などに関して法令ではどうなっているかを解説）
- 『三河の植物観察 Flora of Mikawa』<https://mikawanoyasou.org/index.shtml>
- 『京都府レッドデータブック2015』<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>

このガイドブックは城陽生きもの調査隊の次の人たちが提供してくれた写真・情報をもとに作製しました。

久田晴生、田部富男、吉川晃弘、田中昭夫、平賀葉月、平賀小春、一寶詩乃、東海林溪介、松島要、大塚恭平、青木緋里。

このガイドブックの見方とキノコの種類

近年、遺伝子（DNA）解析の急速な発展により、キノコの分類（種類分け）が大きく変わりました。それによって形の似ていないものが同じ仲間として分類されたり、よく似たものが別の仲間に分けられたりしました。しかし、一般の人はキノコの外形を見て区別します。そこでこのガイドブックでは外形をもとにした分け方（旧分類）で次の順番にまとめ、さらにそれぞれに新しい分類の目（もく）や科（か）の名前をつけて掲載しました。

1. キノコらしいキノコ（旧帽菌類ハラタケ目） その1～その6
2. 固い系のキノコ（旧帽菌類ヒダナシタケ目） その1・その2
3. 丸っこいキノコ（旧腹菌類） その1・その2
4. キクラゲ類
5. 子嚢（しのう）菌類（冬虫夏草など）

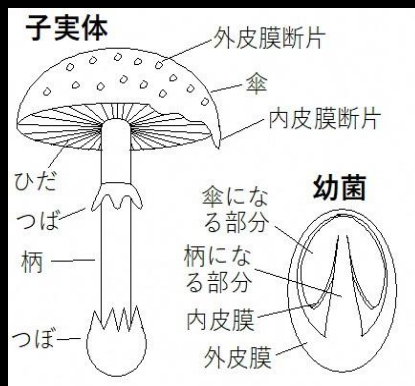
なお、種（しゅ）、属（ぞく）、科（か）、目（もく）という言葉が登場しますが、これらは生物分類のくくりを表すもので、種、属、科、目の順で大きなくくりになっていきます。

キノコの体

私たちが見る「キノコ」の体を子実体（しじつたい）と言います（コラム2）。子実体の形にはさまざまありますが、そのうち、傘と柄を持つ「キノコ」の説明をします。

まず「傘」の部分。この下面に「ひだ」があり、そこに孢子（ほうし）がつけられます。ひだではなく管孔（穴状）やイボ状などになっている種類もあります。傘は孢子を雨から守っています。まさに「傘」です。倒木から横向きに出てきたキノコも、傘が上にひだが下になるように柄が曲がります。

キノコが成長する前は卵のような形（幼菌）をしていて、そのとき、ひだを覆って孢子を守っていた部分（内皮膜）や全体を覆っていた部分（外皮膜）は成長とともに切り離され、その名残がそれぞれつば・つぼになります。傘の周辺部や上面に断片が残ることもあります。これらが残らないものもあり、これらの有無や形はキノコを見分けるときのポイントになります。



製作・発行：城陽環境パートナーシップ会議

※本書の内容について無断転載・複製を禁じます。